



- 基本理念は「人と社会と自然との共生」の実現に資する人材育成、学術研究を行うこと
2001年に公設民営大学として設立され、2012年に公立化（鳥取県・鳥取市が共同設置）
環境学部、経営学部、大学院修士課程があり、学生教職員約1,400名（学生の8割は全国から）
- CO2削減に向けて、教職員・学生が一緒になって、様々な取組を始めている

脱炭素先行地域（2023～2028年度）

- 鳥取市、公立鳥取環境大学等計4者の共同提案
- 環境省事業（第3回）に4/28採択
- 対象地域：鳥取市（若葉台地区（本学）、佐治町）
- 目標：2030年に民生部門の電力由来CO2排出ゼロ
- **本学は太陽光発電の導入、ZEB化(断熱・LED化など)を進め、地域の脱炭素化取り組みを教育、研究に活用**
- 地元企業がEV等による新交通サービスを計画

脱炭素実行計画（Race to Zero）

- 国連キャンペーンRace to Zeroに参加(国内大学3校目)
- サステナビリティ研究所に教職員・学生で構成するWGを設置して検討し、2023年度内に策定、公表
- 現在、全構成員にCO2削減アイデアを募集中
- 教育・研究の質、効果を落とさないことに留意

トピックス

- 脱炭素に向けて学生と意見交換（8/30）主な意見:大学生活がより豊かになるように。他大学のロールモデルを目指す。など
- 脱炭素推進にEMS（ISO14001）を活用（2024～）
- COP28（ドバイ）へ学生2名を派遣（鳥取県事業）
- 第65次南極地域観測隊に徳田准教授が参加（11月～）



南極のサンゴから産業革命以降の環境変動を解明(※写真は第61次、2019～2022のもの)



大学キャンパスの一角で暮らすヤギ
大学のシンボルの一つ



- 8/1、2030年目標を設定し、国連キャンペーンRace to Zeroに参加（公立大学で初）
- Scope1+2は、2013～2022年に30%削減達成済み ※省エネ(空調・LED・EV等)による
- 2030年目標値、620t(年5.5%削減) (cf. 1.5℃目標達成のためのSBT値：年4.2%削減)
- 2030年、対2013年度比で60%削減の目標 (cf. 国の目標：46%削減)
 - ※加速化は、再エネ、ZEB化による (2013年 1,568t → 2022年 1,107t → 2030年 620t)
- Scope3は、2030年目標値、1,405t (年2.5%削減) (cf. SBT要求値：年2.5%削減)
- Scope3の課題
 1. 通勤・通学、紙関連(図書、会議資料など) の排出が多い
 2. 現在の決算金額ベースでの試算をリアルな排出量算定に転換

Scope 3

- 主に決算金額ベースで試算
- カテゴリ7（通勤）が多い
- 紙関連（図書、用紙、冊子等印刷物など）が多い（計132t）
- 現試算は削減効果把握に限界あり

2022実績 計1,756t (100%)

カテゴリ1	633t (36%)	▲351t 2022比(8年間) ▲20% ▲2.5%/年	2030目標
カテゴリ2	600t (34%)		
カテゴリ7	278t (16%)		
カテゴリ3～6	245t (14%)		
※カテゴリ8～15なし			カテゴリ1～7 1,405t